

3. つながりをつくる 巡回展示・大型映像配給

全国の科学館・博物館などへの展示物の巡回や映像配給により、科学コミュニケーション活動の普及活動を行うとともに、海外にも展開しています。2013年度は以下の16コンテンツを展開し、のべ84万人以上の動員を記録しました。

■巡回展示

- ▶メイキング・オブ・東京スカイツリー® ～ようこそ、天空の建設現場へ～
札幌東武ホテル(北海道)、マレーシア日本国際工学院(マレーシア)、キタカラ、五稜郭タワー、中標津町総合文化会館(北海道)、ホテル日航東京(東京都)、東京スカイツリー イーストタワー(東京都)
- ▶お化け屋敷で科学する!2 ～恐怖の実験～
マレーシア国立科学館(マレーシア)
- ▶ドラえもんの科学みらい展
名古屋市科学館(愛知県)、高岡市美術館(富山県)
- ▶「科学で体験するマンガ展」～時を超える夢のヒーロー～
エミフルMASAKI(愛媛県)
- ▶世界の終わりのものがたり～もはや逃れられない73の問い
日比谷図書館文化館(東京都)
- ▶きみのみらい・みらいのきみーかこさとしと探しにいこう、絵本の中へ
あーすぶらざ(神奈川県)
- ▶‘おいしく、食べる’の科学展
姫路科学館(兵庫県)
- ▶「時間旅行」展 -TIME! TIME! TIME!
長崎市科学館(長崎県)
- ▶メディアラボ第11期「フカシギの教え方」
長崎市科学館(長崎県)
- ▶「オーロラ ～宇宙からの手紙～」写真パネル展
国内科学館(長野県、北海道、岩手県、愛媛県、宮城県、群馬県、長崎県、石川県)
- ▶環境テクノロジー
埼玉県総合教育センター(埼玉県)、広島市こども文化科学館(広島県)、もぐらんぴあ・まちなか水族館(岩手県)



巡回展示
「世界の終わりのものがたり
～もはや逃れられない73の問い」



巡回展示
「時間旅行」展-TIME! TIME! TIME!



大型映像配給
「Young Alive! ～iPS細胞がひらく未来～」

■大型映像配給

- ▶ちきゅうをみつめて
筑波大学(茨城県)
- ▶Young Alive! ～iPS細胞がひらく未来～
日立シビックセンター(茨城県)、山梨県立科学館(山梨県)、飯田市美術博物館(長野県)
- ▶夜はやさしい
新潟県立自然科学館(新潟県)

■ブース出展など

- ▶未来館PRブース
ASPAC2013(韓国)、ECSITE2013(スウェーデン)、国際交流フェスティバル(東京都)、ホテル日航東京(東京都)、進学EXPO活用ガイド(東京都)
- ▶Geo-Cosmos(3Dプロジェクション)、Geo-Palette、オーサグラフなど
サステナブルパーク(スイス)



未来館PRブースの出展

3. つながりをつくる 全国科学館連携協議会

全国の科学館181館が加盟する「全国科学館連携協議会」事務局の運営を通じて、科学館のネットワークを活用した効果的な情報発信に努めています。

■ パネル展の貸出

研究機関などの協力を得て「全国科学館連携協議会」加盟館を対象にパネル展の巡回調整と貸出を行いました。2013年度は18コンテンツをのべ57館へ展開し、のべ56万人以上の動員を記録しました。

〔協力機関〕 独立行政法人海洋研究開発機構、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人国際協力機構、向井千秋記念子ども科学館



パネル展の巡回

■ 幹事会・総会、ブロック会議の開催

各地域のネットワーク強化を目的として以下の会議を実施しました。

会議	開催日	会場	参加者
幹事会・総会 / 施設見学	2013年6月26日(水) / 27日(木)	日本科学未来館 / 多摩六都科学館	75団体85人 / 22団体26人
関東・信越ブロック会議	2013年10月2日(水)	ぐんまこどもの国児童会館	6館11人
東北ブロック会議	2013年10月17日(木)、18日(金)	仙台市天文台	15館29人
近畿ブロック会議	2013年11月24日(日)	大阪科学技術館	8館14人
九州ブロック会議	2013年11月25日(月)、26日(火)	荒尾総合文化センター 子ども科学館	12館17人
関東・甲ブロック会議	2013年12月6日(金)	日本科学未来館	12館18人
中国・四国ブロック会議	2014年2月14日(金)	広島市子ども文化科学館	6館10人
東海ブロック会議	2014年2月27日(木)、28日(金)	豊橋市地下資源館	8館14人



関東・甲ブロック会議

■ 加盟館職員を対象とした研修の実施

加盟館職員の能力向上やコミュニケーション促進を目的に以下の研修を行いました。

▶ 第1回国内研修

研修テーマ：科学館・博物館とボランティア
開催日：2013年11月10日(日)、11日(月)
会場：日本科学未来館
参加者：27館52人

▶ 第2回国内研修

研修テーマ：科学館・博物館と学校との連携
開催日：2014年2月13日(木)、14日(金)
会場：広島市子ども文化科学館
参加者：27館41人

▶ 海外研修

期間：2014年2月2日(日)～7日(金)
場所：ピショップ博物館、イミロア天文学センター、国立天文台ハワイ観測所(アメリカ・ハワイ州)
参加者：13館14人



第1回国内研修



海外研修

3. つながりをつくる 国際展開

国際的な科学館コミュニティとの連携活動として、国際会議での情報発信、海外科学館との人材交流などを行っています。

■ 科学館国際会議への参加

地域社会や世界における科学館のあり方や貢献の方法などについて議論するとともに、科学コミュニケーション活動の新しい試みに関するプレゼンテーションや出展などを行いました。

▶ ASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟) 2013

会 期：2013年5月6日(月)～9日(木)
会 場：韓国国立中央博物館(韓国・テジョン)
参加者：約300人(未来館からの参加は10人)

▶ ECSITE(欧州科学館会議) 2013

会 期：2013年6月6日(木)～8日(土)
会 場：Universeum(スウェーデン・ヨーテボリ)
参加者：約1,058人(未来館からの参加は7人)

▶ ASTC(科学技術センター協会) 2013

会 期：2013年10月19日(土)～22日(火)
会 場：Explora, National Museum of Nuclear Science and History, New Mexico Museum of Natural History and Science(米国・アルバカーキ)
参加者：計1,700人(未来館からの参加は1人)

▶ ISSM(科学館国際シンポジウム) 2013

開催日：2013年10月30日(水)、31日(木)
会 場：韓国国立科学館(韓国・テジョン)
参加者：約200人(未来館からの参加は1人)

▶ ミュージアムカンファレンス

会 期：2014年3月10日(月)～12日(水)
会 場：Hotel Comwell(デンマーク・コールディング)
参加者：約300人(未来館からの参加は1人)

▶ SCWS(世界科学館サミット) 2014

会 期：2014年3月17日(月)～19日(水)
会 場：テクノポリス科学館(ベルギー・メヘレン)
参加者：350人(未来館からの参加は7人)

Science Center World Summit (SCWS) :

世界のサイエンスセンターネットワークによる国際プログラム委員会 (International Program Committee) は、1996年より「世界科学館会議 (Science Center World Congress)」を3年毎に開催してきました。同会議は、7回目となる2014年から、科学館が未来社会にどのように貢献できるかを議論し、かつ外部組織とも連携することを目的として、「世界科学館サミット (Science Center World Summit)」と改められました。SCWS2017のホスト館が未来館に決定し、2014年3月にベルギーで開催されたSCWS2014では引継ぎと事前準備を行うとともに、館内では実施に向けた体制整備を進めています。



ASPAC (アジア太平洋地域科学館連盟)2013



SCWS(世界科学館サミット)2014

■ 海外科学館との人材交流

人材交流、科学コミュニケーション活動や展示開発などのノウハウの共有を目的に、海外科学館への職員派遣や研修員の受け入れを行い、意見交換や研修を実施しました。

▶ ドイツミュージアムへのスタッフ派遣

期 間：2013年5月21日(火)～30日(木)
派遣員：3人

▶ 香港宇宙科学館からの研修員受け入れ

期 間：2013年11月25日(月)～29日(金)
研修員：1人(香港宇宙科学館 大型映像部長)

▶ 香港科学館からの研修員受け入れ

期 間：2014年2月4日(火)～7日(金)
研修員：1人(香港科学館運用保守部 メンテナンス主任技術者)



人材交流の様子
(香港宇宙科学館スタッフ)

■ マレーシア国立工科大学への出展協力

マレーシア国立工科大学の「マレーシア国際日本工学院」開校式と附属産業博物館へ「メイキング・オブ・東京スカイツリー® ～ようこそ、天空の建設現場へ～」(簡易版)を出展しました。

会 期：2012年6月1日(金)～2013年6月30日(日)
会 場：マレーシア国際日本工学院 附属産業博物館

(敬称略)

3. つながりをつくる 学校・教育機関とのつながり

学校団体向けプログラムを通じて学習機会の充実を図るとともに、大学院生を対象とした科学コミュニケーション能力向上のための授業や高校教員の長期研修の受け入れを実施するなど、教育機関との連携を進めました。

■学校団体向けプログラム

2013年度は、学校団体を対象に以下の10種類のプログラムを実施しました。

“聞く”プログラム (5種)	“実験する”プログラム (4種)
<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙旅行から考える地球環境のこと ・深海にふれてみる～水圧実験 ・電子顕微鏡でのぞいてみよう～ミクロの世界 ・どうする？エネルギーの選択 ・iPS細胞がもたらす再生医療の可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの抽出 ・放射線 ・環境～グリーンケミストリー～ ・超伝導
	シアター系プログラム (1種)
	<ul style="list-style-type: none"> ・4D2U～spacewalk

開催日：平日のみ(計128回)

対象：小学4年生～高校生

参加者：のべ3,934人



“聞く”プログラム実施風景

■大学院生向け授業

未来館の展示場を活用した解説実習の導入などにより、実践的な科学コミュニケーション能力の習得を目的とした大学院生向けの授業を行いました。

▶芝浦工業大学大学院共通科目「科学コミュニケーション学」

期間：2013年6月～11月

受講者：52人

▶筑波大学大学院共通科目「未来社会を考える科学コミュニケーション」

開催時期：2013年10月

受講者：8人



芝浦工業大学大学院での授業

■長期研修教員

学校教育への科学コミュニケーションの普及、実践的な教育研究の推進などを目的として、埼玉県教育局より現職の高校教員(1名)の長期研修を通年で受け入れ、展示開発、フロア実演、実験教室、科学コミュニケーターブログ執筆などを企画・実施しました。

■教員向け科学コミュニケーション研修

未来館のフィールドを生かした科学コミュニケーションの理解増進と理科の授業や校外学習などで使える実践的な活用方法の習得を目的とした研修を行いました。

▶教員免許講習

実施日：2013年8月25日(日)、11月17日(日)

受講者：33人

▶埼玉県高等学校初任者研修

実施日：2013年10月9日(水)

受講者：57人



埼玉県高等学校初任者研修

3. つながりをつくる ボランティア・メンバーシップの活動

さまざまなボランティア活動やメンバーシップ制度を通じて、来館者サービスに積極的に取り組んでいます。

■ ボランティアの活動

展示フロアでの展示解説のほか、ボランティアが企画したイベントを実施しました。2013年度は、高い専門性をもつボランティア自らがスピーカーとなり専門分野について紹介し来館者と語り合う、短時間のトークイベント「サイエンストーク・フェスタ」を新たに実施しました。

- ▶ ノーベルかがくショー（7テーマ、計434回）
参加者：のべ6,259人
- ▶ 展示フロアツアー（508回）
参加者：のべ3,294人
- ▶ 実験屋台（3テーマ、計8回）
参加者：のべ3,024人
- ▶ ボランティアイベント（2回）
参加者：のべ3,122人
- ▶ サイエンストーク・フェスタ（1回）
参加者：300人



展示フロアツアー
「人類はなぜ宇宙を目指すのか」



サイエンストーク・フェスタ

■ メンバーシップの活動

クラブMiraikan向けの活動として、主に以下のイベントを行いました。

- ▶ 試行会・モニター（開催数：試行会1回、モニター 9回、参加者：のべ55人）
一般公開前の特別実験教室「導電性プラスチックで二次電池をつくろう！」の試行会、イベント「自由研究から学ぶ研究のキホン」や実証実験「自律型ロボットによる展示説明」のモニターなどを実施しました。
- ▶ 実験教室（開催数：計102回、参加者：のべ861人）
会員向けの実験教室「解剖と培養～昆虫から見えてくる生き物のしくみ」、「サイボーグ～きみの筋電でロボットが動く」、「DNA鑑定～科学捜査で犯人を見つける」、「グリーンにつくる蛍光物質」、「ロボット運動系～ロボットの動くしくみ」を実施しました。
- ▶ リアルラボ（研究施設訪問）（開催数：10回、参加者：のべ207人）
研究施設や大学などの研究現場を訪問し、研究者からのレクチャーや実験に取り組む館外イベントを行いました。（訪問先：産業技術総合研究所臨海副都心センター、ライフテクノロジーズジャパン株式会社、南極観測船「しらせ」など）
- ▶ 半日科学コミュニケーター体験（開催数：計17回、参加者：のべ29人）
会員が科学コミュニケーターの仕事を体験するイベントとして、「インターネット物理モデル」の実演などを行いました。
- ▶ ワークショップなど（開催数：計73回、参加者：のべ907人）
「養殖と循環社会」をテーマとした半年間（計7回）におよぶワークショップ「養殖を体験して、循環社会の大切さを伝えよう！」、情報技術と天文学を組み合わせた「世界とつながる！宇宙観測ワークショップ」などを実施しました。



特別実験教室「導電性プラスチックで二次電池をつくろう！」試行会



ワークショップ「養殖を体験して、循環社会の大切さを伝えよう！」

3. つながりをつくる 研究者・技術者とのつながり

展示やイベントを通じて先端の科学技術に関する情報を社会へ発信することを目的として、現在活躍している研究者や技術者、研究コミュニティなどと積極的に連携しています。

■先端の科学技術に関する調査

以下の新規展示や館内外のイベントなどを企画・開発、実施するにあたり、国内外の先端科学技術の動向を把握するために、168名の研究者・技術者へ調査やインタビューなどを行いました。

- ▶ 常設展示関連：メディアラボ第12期・第13期、新規コーナー「「おや？」っこひろば」など
- ▶ 企画展示関連：「波瀾万丈！おかね道—あなたをうつし出す10の実験」、「トイレ？ 行ットイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい」（2014年7月～10月）
- ▶ イベント・実演：「サイエンティスト・トーク」シリーズ、日本分子生物学会との共催イベント「デザイン×科学 生命マテリアル会議」、宇宙航空研究開発機構との共催イベント「JAXA OPEN API COMPETITION 2014」、特別支援学校向けプログラム開発、企画展「THE世界一展」関連イベントなど
- ▶ そのほか：パーソナルモビリティ「UNI-CUB」の共同実証実験、新型ASIMOを用いた自律型説明ロボット実証実験など

■研究施設入居プロジェクトとの共同研究

世界的にも珍しい、科学館の中に研究施設が併設されているという特色を活かして、研究施設の研究者による科学コミュニケーション活動を積極的に展開しています。2013年度は、研究施設に入居する研究プロジェクトとともに、展示フロアを活用した共同研究を実施しました。

- ▶ 「ロボットOSプロジェクト」において、実時間並列ディペンダブルOSとその分散ネットワークの研究
研究代表者：加賀美聡(産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター 副センター長、兼ヒューマノイドインタラクションチーム長)
- ▶ 「インタラクション理解プロジェクト」において、科学コミュニケーターとのインタラクションを分析し「よりよいインタラクション」を明らかにする研究
研究代表者：坊農真弓(国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 助教)



「インタラクション理解プロジェクト」
との共同研究

■学会などでの発表

- ▶ ASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟)2013
発表数：6件
発表日：2013年5月6日(月)～9日(木)
- ▶ ECSITE(欧州科学館会議)2013
発表数：5件
発表日：2013年6月7日(金)、8日(土)
- ▶ 日本環境教育学会(第24回大会)
発表数：1件
発表日：2013年7月6日(土)
- ▶ 日本理科教育学会(第63回全国大会)
発表数：3件
発表日：2013年11月16日(土)、17日(日)
- ▶ 日本ロボット学会(第31回)
発表数：1件
発表日：2013年9月5日(木)
- ▶ 科学技術社会論学会(第12回年次研究大会)
発表数：3件
発表日：2013年11月16日(土)、17日(日)
- ▶ AZEC(アジア動物園教育者会議)2013
発表数：1件
発表日：2013年12月11日(水)
- ▶ 経済地理学会(中部支部12月例会)
発表数：1件
発表日：2013年12月21日(土)
- ▶ 日本ESD(持続可能な開発のための教育)ユースコンファレンス
発表数：1件
発表日：2014年2月16日(日)



ECSITE(欧州科学館会議)2013
での発表

(敬称略)

3. つながりをつくる メディアとのつながり

企画展やイベント、未来館のさまざまな活動のほか、先端科学技術のトピックなどについて情報発信するとともに、メディアとのタイアップを通じ新しい利用層への発信も行っています。

■メディア対応

企画展「サンダーバード博～世紀の特撮が描くボクらの未来～」(会期：2013年7月10日～9月23日)や企画展「THE 世界一展 ～極める日本！モノづくり～」(会期：2013年12月7日～2014年5月6日)の広報活動、外部メディアとのタイアップイベント、ノーベル賞受賞関連の活動、ロケット打ち上げ中継イベントなどの影響により、2012年度から、メディア対応件数で約19%、広告換算費で約85%増加しました。

- ▶メディア対応件数：6,980件
- ▶広告換算費：5,890,098,962円

■ホームページ

公式ウェブサイトをリニューアルし、2013年5月29日(水)に公開しました。アクセス数は、企画展「THE 世界一展 ～極める日本！モノづくり～」特設サイト、「STAP細胞」関連のブログなどの閲覧を中心に、2012年度から約61%増加しました。

- ▶アクセス数：14,166,440

■外部メディアとの連携

影響力が高いメディアとのタイアップにより、イベント規模の拡大とともに、集客と露出量の獲得につなげました。外部メディアとさまざまな形式のタイアップを通じ、新しい利用層への情報発信を行いました。

▶NHK

タイアップイベント「サイエンス・スタジアム 2013」を2013年9月28日(土)～29日(日)に開催し、科学番組の使用模型・セットの展示、次世代ハイビジョンテレビの上映、番組の公開収録(Eテレ「サイエンスZERO」、「すイエんサー」、「名作ホスピタル」、BSプレミアム「コズミックフロントスペシャル」)、科学コミュニケーターの番組出演などを行いました。

▶東京新聞社

タイアップイベント「iPS細胞がひらく未来を探検しよう！」を2013年8月3日(土)に開催し、iPS細胞をテーマとしたワークショップ、科学コミュニケーターによるミニトークなどを行いました。

▶朝日学生新聞社

タイアップイベント「朝小 春祭り at 日本科学未来館」を2014年3月21日(金・祝)～23日(日)に開催し、科学コミュニケーターとボランティアによるサイエンストーク、パーソナルモビリティ「UNI-CUB」を使ったワークショップなどを行いました。

▶外部出版社

「Newton」、「朝日小学生新聞」などへの寄稿や書籍の科学監修を行いました。また、「日経WOMAN」との連携活動として、未来館へ来館したことのない20～30代の女性を対象に特別ツアーと参加者へのヒアリング、媒体を通じた情報発信を行いました。



サイエンス・スタジアム 2013



朝小 春祭り at 日本科学未来館

3. つながりをつくる 産業界とのつながり

企画展への協賛・協力、パートナーシップ制度の活用のほか、民間企業などと積極的に連携しながら、科学技術と社会とのコミュニケーションの活性化に向けた活動を行っています。

(企画展の協賛などについては、「1. 科学を伝える 企画展」①②③をご参照ください。)

■ 株式会社リコーとの協働活動

オフィシャルパートナー（ゴールド賛助企業）である株式会社リコーとの協働活動として、認知科学などの応用から打合せの活性度を測定するWebアプリケーション「プレスト測定システム」のプロトタイプを開発し、実証実験を目的としたイベントを実施しました。

▶ 実証実験イベント「高校生カフェメニューコンテスト」

期 間：2013年12月下旬～2014年2月23日(日)

会 場：岩手県陸前高田市

主 催：株式会社リコー、日本科学未来館

共 催：岩手県立高田高等学校

協 力：黄川田美和(陸前高田まちづくり協働センター スタッフ)、菅原由紀枝(特別養護老人ホーム高寿園給食サービス部長)、原田良一(レストランあさひやオーナーシェフ)

後 援：陸前高田市、陸前高田商工会青年部

参加者：9人(岩手県立陸前高田高等学校 在校生)



高校生カフェメニューコンテスト

■ 本田技研工業株式会社との共同研究

本田技研工業株式会社が開発したヒューマノイドロボット「ASIMO」を用いた以下の実証実験に参加し、ロボットと人が共存する未来のあり方について考える機会を来館者へ提供するとともに、実験から得られた結果を開発者へフィードバックしました。

▶ 新型ASIMOが自らの機能を説明、来館者の返答に応じた解説

期 間：2013年7月3日(水)～8月2日(金)

会 場：3階 未来をつくる「ロボットステージ」

参加者：のべ6,900人(計119回)



新型ASIMOを用いた
自律型説明ロボット実証実験

▶ 新型ASIMOが来館者へ「1対1」で展示物を解説

期 間：2013年10月2日(水)～10月21日(月)

会 場：3階 サイエンスライブラリ

協 力：株式会社国際電気通信基礎技術研究所

参加者：のべ238人(計296回)

(敬称略)

3. つながりをつくる 立法府・行政府とのつながり

科学技術基本計画などの国の施策をどのように実現できるか、また蓄積した情報をどのように国の施策に反映できるか、立法府・行政府との関係を構築しながら、日々の業務を通して活動しています。2013年度は、主に次のような各国政府関係者が来館しています。

▶ 国内

- ・ 櫻田義孝 文部科学副大臣 [2013年10月7日(月)]
- ・ 富岡勉 文部科学大臣政務官 [2013年10月11日(金)]
- ・ 新藤義孝 総務大臣 [2013年11月14日(木)]
- ・ 高木毅 国土交通副大臣 [2013年11月14日(木)]
- ・ 自由民主党衆議院議員視察団(7人) [2014年2月17日(月)]
- ・ 松島みどり 経済産業副大臣 [2014年3月26日(水)]



櫻田文部科学副大臣の視察

▶ 海外

- ・ アハメド・ピラル パキスタン・イスラム共和国宇宙機関 長官 [2013年5月13日(月)]
- ・ マルコス・ベゼーハ・アボッチ・ガウヴォン ブラジル連邦共和国駐日大使
[2013年5月15日(水)]
- ・ ラファエル・ラミレス・カレーニョ ベネズエラ・ボリバル共和国エネルギー・石油大臣
[2013年6月7日(金)]
- ・ ホセ・メゲル・アギレラ チリ共和国国立科学技術研究委員長 [2013年9月4日(水)]
- ・ アニカ・レムベ スウェーデン王国駐日大使 [2013年10月2日(水)]
- ・ デレク・アンドレ・ハネコム 南アフリカ共和国科学技術大臣 [2013年10月4日(金)]
- ・ ホーカン・エーケングレーン スウェーデン王国企業・エネルギー・通信副大臣
[2013年10月5日(土)]
- ・ デービッド・カーター ニュージーランド国会議長 [2013年10月7日(月)]
- ・ ラムジ・スティノ エジプト・アラブ共和国科学研究大臣 [2013年10月11日(金)]
- ・ 中華人民共和国 中国科学技術代表団(40名) [2013年10月16日(水)]
- ・ 永野博 経済協力開発機構グローバルサイエンスフォーラム議長 ほか61名
[2013年10月24日(木)]
- ・ レベッカ・アリトゥワラ・カダガ ウガンダ共和国国民議会議長 [2013年10月25日(金)]
- ・ ハリ・プルワント インドネシア共和国研究次官 [2013年11月14日(木)]
- ・ トウラ・シェエ・マン ミャンマー連邦共和国国民代表院議長 ほか38名
[2013年11月28日(木)]
- ・ アッサン・イクバル パキスタン・イスラム共和国計画・開発大臣 [2013年12月5日(木)]
- ・ ラーディンク・ファン・フォレンホーヴェン オランダ王国駐日大使 [2014年2月12日(水)]
- ・ エクトル・パウリーノ・ドミンゲス・ロドリゲス ドミニカ共和国駐日大使
[2014年2月26日(水)]
- ・ ノラチット・シンハセニ タイ王国 ASEAN・国連常駐代表 [2014年3月24日(月)]
- ・ ディオニシオ・ダ・コスタ・バボ・ソアレス 東ティモール民主共和国法務大臣
[2014年3月24日(月)]



「経済協力開発機構
グローバルサイエンスフォーラム」
会合参加者への視察ツアー

(敬称略)